

1 学校教育目標
<p>教育綱領「礼節」「勤労」「進取」のもと、人吉・球磨地域にある普通科の人吉高校の分校として、五木村の豊かな自然環境の中、小規模校の特長を最大限に生かして、心豊かで調和のとれた社会に貢献できる人材を育成します。</p> <p>そのため、生徒の多様な進路希望を叶える個別最適化した学びを充実するとともに、一人一人の個性と自主性を尊重し、地域と連携した多様な教育活動を目指します。</p> <p>今後は、体験活動や探究活動等を通して、生徒が自己実現に向かう心を育み、実践力や自己管理能力など幅広いキャリア教育の充実を図ります。また、ICTを積極的に活用し、分校と本校を結ぶ遠隔授業の実施や地元の小中学校や関係機関との連携を深め、地域に根差した特色ある探究的な学びを展開します。</p>

2 本年度の重点目標
<p>教育スローガン「一人一人が輝く分校生！」</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 基本的な生活習慣と学習習慣の確立を通して自己管理能力を育成し、自己実現に向かう心を育成する。 2 ICTを活用した教育活動の進化と深化による、主体的・対話的で深い学びを充実させる。 3 進路指導の充実を図る。 4 多様な生徒への対応に努める。 5 地域に根ざした特色ある取組を推進する。 6 校務改革に取り組み、生徒と向き合う時間を確保し、職員の多忙化の解消に努める。

3 自己評価総括表						
評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
学校経営	信頼される学校づくり	広報活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページの充実。 ・分校ニュースの発行。 ・「地域とともにある学校」の実践。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページを月2回以上更新し、アクセス数が1日平均100件を超える。 ・生徒の頑張りを情報発信する分校ニュースの毎月発行、保護者、地域機関、五木村民、出身中及び学校運営協議会への配付とホームページへの掲載。 ・学校行事等を地域へ発信。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・年間をとおして、ホームページの更新を実施した。アクセス数は1日平均234件(前年比+76)であった。 ・ホームページへの掲載は、担当部署で行事毎の記事を即日掲載する事を検討する。 ・五木村の広報誌に掲載することができた。
		ボランティア活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・地域貢献のための環境美化活動の実施。 ・地域の交通安全運動の協力。 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査最終日及び夏休みに学校周辺の清掃・美化活動を全校生徒・職員で実施(学期に1回以上、年3回以上)。また地域と連携を図り、新たなボランティア活動を模索する。 ・春と秋の交通安全週間にあわせて交通安全啓発運動「タッチ運動」を実施。 ・毎月月初めにあいさつ運動を実施。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度は回数を減らし学期に1回ずつ行った。内容は例年通り、清掃・美化活動を行った。作業時間・内容の見直しについては、関係各所と相談の上、次年度までに検討を進めていく。 ・タッチ運動・あいさつ運動について計画通りに実施できた。一方、本校の実施時間と役場や警察が設定している時間にずれがあるため次年度に向け検討が必要である。
			五木秀麗会との連携強化	<ul style="list-style-type: none"> ・秀麗会、保護者懇談会等を通じた連携。 ・保護者の協力を得ながら運動会 	<ul style="list-style-type: none"> ・秀麗会会長との連絡を密にし、連携を図る。 ・日頃からの担任と保護者の密な連絡・相談 	B

			等の各種行事の成功。	等を通し、良好な協力関係を構築。 ・すぐーる(配信)を活用し積極的な配信。		・長距離走大会のうどんの炊出、門松づくりができた。 ・保護者向けに全ての連絡を配信できた。
地域に密着した教育活動の充実	地元保育所・五木東小学校・五木中学校との合同事業の充実		・第13回保小中高合同大運動会の円滑な運営と成功。 ・小学校や中学校との交流、合同研修会や行事の充実。	・地元保育園・小学校・中学校及び各校種PTAと密接な連絡体制の構築と連携。 ・合同運動会のアンケート等を分析。 ・救急講習、防災教育、各種講演会等における中学校との合同開催の実施。	B	・13年続いている五木村保小中高合同運動会では、当番校(中学)と連携して各校種との調整や連携を図り、スムーズに開催できた。 ・合同運動会のアンケート結果より、開会式の行進時間や合同練習前に動きや流れの指示の必要性など今後検討が必要である。 ・避難訓練、救急法講習会や薬物乱用防止教室を中学校と合同で実施することができた。
	地域中学校との連携強化及び入学生徒数の確保		・中学校への魅力発信の取組の充実。 ・令和8年度入学者数の増加。	・体験入学及び学校紹介動画のリニューアルとマスコミ等を活用したPR。 ・在校生の状況に関する情報共有などを通じた中学校への継続的なPR。 ・専門機関や地域と連携した特色ある教育活動のPR。	A	・体験入学者は昨年度と同数で13名参加であったが、その後も4名学校見学があった。学校紹介動画も刷新し、PRできた。 ・管内の全中学校を訪問し、在校生の状況と新しく作ったリーフレットを配布した結果、体験入学以後も中学生の学校訪問が数件あった。 ・特色ある活動を展開し、メディアに数多く取り上げていただいた。
	五木村関係団体との連携等への協力		・分校独自の教育活動の展開。 ・五木村の教育活動への参画と協力依頼。 ・警察と連携した交通安全指導等への参加。 ・消防署と連携した、救急法講習や防災教育の実施。 ・月初めにあいさつ運動の実施。	・県内の分校3校による「分校同盟」や東京大学先端科学技術研究センターと連携した「五木分校魅力向上プログラム」の実施。 ・五木村各種会議への参加。「五木プロジェクト」で地域の方と交流を増やす。 ・五木村で行われるあいさつ運動、交通安全タッチ運動等への参加。 ・中学校との連携を密に図り関係機関との調整を円滑に実施。 ・地域の方々への挨拶により、地域との良好な協力関係を維持。	A	・分校同盟では、初めて五木村で実施してもらい、他校からのアンケート結果も好評であった。東大先端研の先生方3名と協力して魅力ある授業を行った。 ・五木村の新緑祭りでは、イベント企画を実施し大盛況で、学習活動の成果を広く発信することができた。各種会議にも参加して交流が増えた。生徒と村の交流を増やしたい。 ・中学校と合同行事を円滑に実施した。毎月のあいさつ運動に加えタッチ運動など、村と連携できた。

	業務改善 働き方改 革	・生徒と 向き合う 時間の確 保 ・職員 の多忙化 解消	・職場環境の整 備。 ・職員の年休取得 率向上。 ・校務整理、デー タ管理の効率化。	・職員室リフレッシュ や環境整備 ・ノー残業デーの実施 と衛生推進会議の開 催。 ・校務のデジタルシフ トの推進。	A	・職員室のリフレッ シュを行い動線の効 率化を図った。 ・ノー残業デーを実 施し、こまめな年休取 得の声掛けなどを行 い、12月までの年休取 得率は前年を上回っ た(8.06→8.19) ・教務主任と連携し 朝会要項、保護者連絡 等様々な場面でデジ タルシフト化した。
	教育課程	教育課程 の検討実 施	・教育課程の見直 しと評価方法の 検証。	・教育課程が本校の目 標に望ましいものとな っているか検討す る。 ・観点別の評価方法の 検討と見直しを行う。	B	・全教科から意見を 聞き取り教育課程の 変更を検討した。R8年 度入学生から新しい 教育課程となる。 ・成績評価規定に関 しては、分校が各教科 1人という事情もあり 成績評価システムの 作成も行う必要があ った。現在草案はで きており検討中であ る。
学 力 向 上	基礎学力 の定着	学校設定 科目「ス テ ッ プ アップ」の 充実	生徒間の向上心 の高揚を図り、以 下のような昇級 を目指す。 1年・・・7段階昇 級 2年・・・6段階昇 級 3年・・・5段階昇 級	・全学年がそれぞれの 習熟度に応じた課題 に取り組み、ティーム ティーチングによる 振り返り学習の実施。 ・1級以上合格者に対 しては、ICT端末機 器を活用するなど、進 路に応じた個別指導 の実施。	A	・職員の協力のもと、 個別の進捗に応じた 学習が行えた。1級以 上合格者には段とい う形でさらに難易度 の高い問題に取り組 んだ。 ・各年間平均昇級の 3教科の合計は、 1年15.5昇級、2年 7.3昇級、3年8.8昇 級した。
	授業の充 実	「達成感 のある授 業」の構築	・生徒の学力に応 じた授業の工夫と 個別指導の充実。 ・生徒を多角的に 支援する体制の 充実。	・各定期考査前学習会 の実施。 ・個別の教科面談を通 して、生徒個々の目標 設定と、目標達成に向 けた取組の指導。 ・授業等における学習 支援員との連携。	B	・考査前学習会と教 科面談は実施した。 ・学習支援員と授業 担当者は授業後に情 報交換を行った ・。課題としてアン ケート結果Q03の予 習復習の悪化(2.5→ 2.2)が挙げられる。
		授業時間 の確保	学校行事の精選。	・行事の内容を熟議 し、積極的な見直し を行う。 ・時間割変更等の調整 を図り、授業の空白を 作らない。	A	・対外行事の整理・調 整を行い適切な授業 時間の確保ができた。 他分掌に対しても年 度末反省において積 極的に見直しの働き かけを行った。 ・授業時間割の変更 については、授業担 当者が3連続になら ない形で行った。自 習は、授業にすること が職員・生徒に強い 負担になる場合にのみ 実施している。
キ ャ	キャリア 教育の充 実	キャリア ガイド ン	・3年間を見通し たキャリア教育	・進路指導部を中心 に計画を作成。	B	・「進路指導年間計 画」「就職校内選考の

リア教育	実	スの充実	<p>計画の再構築。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進路ガイダンスへの参加や外部講師による進路学習を実施。 ・ICTを活用した進路学習の実施。 	<ul style="list-style-type: none"> ・進路ガイダンスへの参加や進学、就職に関する講話や、社会生活に向けた講話を通して、進路について考える機会を設ける。 ・ICTを活用し、情報収集能力を高め、進路希望を早期に設定する。 	B	<p>流れ」をまとめて生徒に配付し、講話やガイダンス等を計画的に実施できた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ICTの活用についてはHandy進路指導室を導入し、3学期から就職指導を実施する。
		就労観の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒のニーズに応じたインターンシップの実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・インターンシップを通して、職業適性について自己理解を深めるとともに職業観を養い、コミュニケーション能力を高める。 		<ul style="list-style-type: none"> ・インターンシップでは、自己理解を深め職業観を身に付けるよい活動ができた。コミュニケーション能力の育成が引き続き課題である。
		「総合的な探究の時間」における系統的な探究学習の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・協働体験学習を充実させ、社会生活に必要なコミュニケーション能力、思考力、創造力の育成。 ・地域や大学など外部の方々と連携した活動を通してコミュニケーション能力を高め、視野を広げる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・協働して作物を育てる活動を通して、コミュニケーション能力の向上を図る。 ・自らテーマを設定して探究活動を行い、まとめた内容を発表する。 ・地域の課題について探究する活動を通して、地域を理解し、地域への愛着を深める。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・協働活動では互いに協力して取り組むことができた。 ・五木クエストや地域巡検等で地域への理解を深めた。 ・人吉球磨地区県立学校実践発表会、KSH発表会に参加し、日頃の学習活動の成果を発表した。 ・東大先端研との連携授業やくまもと林業大学校と活動して視野を広げた。
生徒指導	個に応じた進路指導	各自の進路希望に応じた個別指導の実施	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒一人一人の希望に応じた進路目標の決定及び、進路目標達成100%。 	<ul style="list-style-type: none"> ・進路希望調査及び個別面談を適宜実施し、個に応じた個別指導や面接指導を行う。 ・関係機関と連携して、個別指導の充実を図る。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・担任を中心に全職員による進路指導や、ハローワーク等と連携して情報収集を行った結果、早い時期に3年生の進路目標100%が達成した。 ・1、2年生について個別の進路面談を行い、助言した。
		基本的な生活習慣の確立と規範意識の高揚	<p>基本的な生活習慣の確立</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自ら生活の質を向上させようとする自己管理能力の育成。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「生活の記録」の毎日の提出。 ・気になる生徒への担任面談の実施と保護者との連携。 ・呼びかけや見本掲示による整理整頓の習慣化。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・担任を中心に日々の生活を把握し、生徒への声掛けや家庭との連絡を細やかに行うことができた。 ・「公」の場での行動やマナーについて担任からの指導および全体での指導も折を見て行った。 ・先のことを考え、今どのようなことに注意が必要かを考える練習が必要である。
生徒指導	規範意識の高揚	規範意識の高揚	<ul style="list-style-type: none"> ・学校行事や学級活動を通し、集団の一員として取るべき行動を学ぶ。 ・自らの言動が、周囲に与える影響を意識する力 	<ul style="list-style-type: none"> ・日々の挨拶・清掃活動・行事での活動を通して社会人として通用するマナーやモラルを育成。 ・行事等を通し達成感を感じ、ほめられる、認められる機会を増 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・特別な指導にあたる案件は起こらなかった。 ・「公」の場での言動については身に付いているが、「私的」な場での言動は改善すべき事例もあり、養護

			を培う。	やし、他者を認める経験を積む。		<p>教諭を中心にSSTを開始する等、今後の課題である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会や集団の一員という意識を根付かせることが必要である。
	家庭との連携		<ul style="list-style-type: none"> ・心理面のストレスからの欠席、問題行動、トラブル等を未然防止するため、家庭から相談してもらえ関係性を構築。 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎学期の心のアンケート調査、生徒の日常観察、家庭との密な連携等の生徒に関する情報を全職員で共有、対処することによりトラブルの未然防止を図る。 ・学校での生活に対する保護者理解を深めるため、分校ニュースやすぐーの有効活用。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・細かなことでも家庭と連絡を取り合うことで連携が図れていると言える。 ・生徒間でトラブルがあったときも学校での様子・家庭での様子をやり取りができており良いサポートに繋がっている。 ・月初めに生徒会通信を出し、行事の案内や考えてほしいことを提示した。
	生徒の主體的活動の充実	主體的な生徒会活動の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・全生徒の生徒会活動への参加。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全生徒が生徒会の係を分担し活動を行い、生徒総会、月例集会の生徒会による運営の充実を図る。また、定期的に委員会を実施し、生徒会の一員としての活動機会を充実させる。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・隔年開催の五文祭を中心に、各種委員会や部活動の発表に積極的に参加することができた。 ・各行事へも全員が参加することができており、今後は新しい提案等ができる力を培いたい。
	放課後の時間を活用した学校生活の充実		<ul style="list-style-type: none"> ・部活動への積極的な参加や自らの課題と向き合う学習への取り組み。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒に部活動等への積極的な参加を促すとともに、様々な体験を通して、新たな目標を持たせる。 ・自らの課題の理解と自己管理能力の育成を図る。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・年度当初、全ての生徒が部活動に所属し、各自が活発に活動したが、職員の参加意識に課題が残った。(職員アンケート Q 25 2.1⇒2.3) ・放課後時間を活用し、自主的に学習に取り組む生徒が増え、必要なことに自ら取り組む時間として活かしている。
人権教育の推進	個々の生徒に応じた適切な指導	生徒一人一人の状況把握と柔軟な対応	<ul style="list-style-type: none"> ・各学期1回以上、職員研修(生徒理解、特別支援等)の実施。 ・毎週の運営委員会での生徒の状況報告と全職員との情報共有。 	<ul style="list-style-type: none"> ・外部の専門家との連携を密にした積極的な活用。 ・生徒理解の資料作成と、全職員が生徒個々の特性と現在の状況を共通理解する手立てを構築し、指導に生かす。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・毎学期の生徒理解研修に加え、別途生徒共通理解の時間を設け、担任が作成した資料を元に、具体的な場面での生徒の行動や職員の対応について意見を出し合うことができた。
		生徒と教職員、生徒同士の望ましい人間関係の構築	<ul style="list-style-type: none"> ・3年間を見通した人権教育LHRの計画的な実施。 ・各行事や日々の交流を通して生徒の自尊感情を高め、互いを認め合うことのできる心の育成。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学年ごとに合うテーマを設定し、わかりやすい授業を実践する。 ・学校行事では、生徒全員が互いに協力して作りあげる取組を重視した計画を立てて、全職員で支援にあたる。また、日々の生活では教職員は親身に接し、信頼関係を築 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・LHRで「北朝鮮拉致問題」、「部落差別」を取り上げ、実施した。 ・ほとんどの生徒が真剣に取り組む、自分の考えを表現できた。全職員で支援することができたが、いじめの認識は個人差が見られ、今後も継続的な

				く。		支援が必要である。
	命を大切に する心を 育む指 導	取組を おし 命の 並に 者 観 す 感 情 成	と生 厳 に 他 の 価 値 を 尊 重 す る 自 尊 育	・各学期「自他の 価値を尊重する 意欲や態度」を育 む授業やLHR の実践。 ・月例集会講話等 で思いやりの心 や強い心の醸成。	・各教科科目の授業 で、「命を大切に する心」についての授業を 行う。 ・LHR、総合的な探 究の時間や月例集会 等を活用し、日頃から 「思いやりの心」につ いて講話を行う。	B ・授業やLHRを通して 自分の発言や行動を 振り返る機会は確保 できた。一方で、互い を思いやる心は持つ ていても、どう表現し て良いか分からな かったり、感情にまか せた言葉を発したり するなど行動に結び つけることが難しい 場面も見られた。 ・引き続き、月例集会 などの場面を活用し、 相手を思いやる心を 育てる取組を行って いく。
いじめの 防止等	いじめ防 止基本方 針の着実 な推進	いじめを 許さない 心を育む 指導の充 実	をい ない む の 充 実	・いじめ等につい て安心して相談 できる安心安全 な環境づくり。 ・いじめに気付 き、だめと判断で きる雰囲気づく り。 ・職員間における 生徒の情報共有。	・全体指導と個別面談 を通し、いじめの未然 防止に取り組み続け る。 ・月例集会等を活用 し、少人数で密な関係 にあるからこそ気づ きにくいことにつ いての注意喚起をする。 ・生徒情報を職員間で 共有し、小さな変化を 見逃さず、早期発見、 早期対応、早期解決、 再発防止のできる体 制と環境づくりを行 う。	B ・心のアンケートで 学期ごと確認をする 中、いじめと認められ る案件は今年度0件 であった。 ・「いじめ」に対する 考え方に個人でばら つきがあることが判 明したことで、教員側 から改めて働きかけ をおこなうことがで きた。 ・生徒自身で考える 「自分たちが心地よ く過ごせる空間づく り」について、3学期 生徒会を中心に進め ていく。
		生徒の状 況把握と 迅速な指 導体制の 構築	の状 況 把握 と 指 導 体制 の 構築	・相談窓口の周知 と日頃の生徒間 の行動観察と情 報共有。 ・年3回の心のア ンケートの実施 と外部の専門家 を活用したいじ め問題対策委員 会の毎学期実施。 ・いじめ防止基本 方針の活用。	・相談窓口を合格者説 明会、入学式、1学期 始業式、五木秀麗会総 会で生徒保護者に周 知徹底する。 ・健康相談・教育相談 担当、担任の日常観察 及び運営委員会報告 等、全職員が生徒の変 化を掌握した上で適 宜対処する。 ・いじめ防止に関する 職員研修の実施。	B ・学校が楽しいと感 じている生徒が大半 で、自分の居場所とし て受け止められてい ると感じている。 ・少人数であるため 全職員の目が全生徒 に届いており、常に情 報交換ができた。 ・自己有用感や達成 感を感じる力を育ん でいきたい。
地域連 携（コ ミュニ ティス クール など）	学校運営 協議会を ベースに した、地 域と一体 となった 連携体制 の構築	地域や関 連機関 との連 携の確 立	と関 連 の 確 立	・行政、地元小 中学校や保護 者、地域住民代 表と連携し、計 画的な協議会の 開催。	・五木分校の教育活動 の説明、主な行事の視 察と承認。 ・村役場、秀麗会、学 校運営協議会委員と 懇談して五木分校へ の地域のニーズを把 握。 ・五木東小学校、五木 中学校への協力や運 営への協力依頼。	B ・計画的に学校運営協 議会を開催した。 ・地域の方をお呼びし て畑の管理や収穫祭 など授業や行事に参 加していただいた。 ・小学校は夏休みプ ール監視のボラン ティアに参加した。また、 中学校と合同行事な どで連携できている

		防災教育の充実	・学校防災年間計画・防災マニュアルの見直しと作成および防災教育の充実。	・生徒の防災意識を高める取組と中学校との合同防災訓練(風水及び土砂)などの実施。 ・各分掌において、防災の視点での行事の計画。	がさらなる連携が望まれる。
					B ・防災教育は、中高連携で行った。 ・学校安全計画を積極的に活用し、行事の計画を行った。
職員研修	職員の資質の向上	・不祥事の根絶 ・人権意識の向上 ・感性の向上 ・ICT活用 ・授業改革	・不祥事0に向けた規範意識の高揚。 ・人権意識の向上、規範意識の高揚。 ・探究型授業の推進。 ・情報セキュリティの意識向上。 ・ICTを活用したわかりやすい授業実践。	・定期的な職員研修と職員朝会での機会を捉えた注意喚起。 ・言語環境を整え、人権意識の高い職場環境の醸成。 ・公開授業や研究授業を通じた研修や外部研修会等への積極的な参加。 ・授業におけるICTの日常的活用。	A ・定期的な職員研修に加え、朝会での注意喚起などを行い不祥事0であった。 ・年3回の校内人権職員研修に加えて、いじめについての校内職員研修も1回行った。 ・ICTを活用してわかりやすい授業を心掛け、探究型授業による主体的な学習を行うことができた。

4 学校関係者評価

1) 学校経営について

- ・ **情報発信と信頼構築**： 地域や保護者とのつながりを重視し、学校の取組や成果を分かりやすく発信することで、引き続き信頼される学校づくりに努めることを期待します。
- ・ **地域連携の深化**： 地域の素材を生かした取組は住民からも好評であり、中学校が実施している「焼き畑活動」への参加など、今後もさらなる連携を期待します。
- ・ **教育環境の充実**： 小規模校の強みを活かしたきめ細かな指導により、生徒が明るくのびのびと活動しています。特に合同運動会での姿や、生徒確保に向けた教職員の熱意は高く評価できます。
- ・ **広報活動の成果**： HPのアクセス数増加やメディア掲載により、学校の魅力が広く伝わっています。温かみのある学校紹介リーフレットも、五木分校の特長を効果的に示しています。
- ・ **働き方改革の推進**： ノー残業デーの設定や年休取得の推進など、教職員の労働環境改善に向けた成果が見られます。

(2) 学力向上について

- ・ **個に応じた指導の徹底**： 少人数の特性を活かし、生徒一人一人の理解状況に応じた指導を行うことで、基礎学力の定着と授業の充実を図ることが重要です。
- ・ **学習支援の充実**： 学校設定科目「ステップアップ」やTT(ティーム・ティーチング)、個別指導など、小規模校ならではの対策がなされています。今後は生徒自らの予習・復習など、自主学習の充実が望まれます。
- ・ **学習習慣の確立**： 家庭学習の習慣化はどの校種でも課題です。「自ら課題を見つけ、学び続ける資質の育成」に向けた継続的な支援を期待します。

(3) キャリア教育について

- ・ **主体的進路選択の支援**： 地域や外部機関と連携し、生徒が自らの進路を主体的に考えられるよう、丁寧な進路指導の充実を期待します。
- ・ **地域活動を通じた成長**： 五木村新緑祭りにおける「五木クエスト」などの活動は、地域の再発見やコミュニケーション能力の育成に大きく寄与しており、継続的な実施を希望します。
- ・ **交流による資質育成**： 大規模校では自然と身に付く資質や能力など、小規模校における集団形成の課題に対し、分校同盟や異校種間連携、地域イベント等を通じて、社会性を育む手立てが効果的に講じられています。

(4) 生徒指導について

- ・ **自己肯定感の育成**： 基本的な生活習慣の確立を基盤とし、生徒が主体的に活動できる機会を設けることで、自己肯定感の育成につなげてほしい。
- ・ **広域的な交流活動**： 倉岳校や泉分校との交流は、他校の生徒や同世代の考えに触れる有意義な機会であり、学校の魅力化の観点からも継続が望まれます。
- ・ **行事を通じた成長**： 文化祭等において、生徒が自身の役割を全うし、互いに見守り

合う姿には大きな教育的成果が感じられます。

- **基本的な生活習慣の課題**： 家庭での「挨拶や掃除」の実践数値が前年度より低下しているため（R6：91.7%→R7：60.0%）、日常的な指導の徹底が必要です。

(5) **人権教育の推進について**

- **人権意識の醸成**： 生徒一人一人の状況に寄り添い、日常の教育活動を通じて継続的に人権意識を養うことを期待します。
- **地域との連携**： 村の人権標語への応募などは、生徒だけでなく地域全体の啓発にも貢献しています。
- **情報モラルの向上**： 思いやりの心の育成とともに、SNS等を含む情報モラルについても生徒は高い意識を持って取り組んでいます。

(6) **いじめの防止等**

- **組織的な対応**： 未然防止を重視し、教職員間の情報共有と組織的な対応を継続してください。
- **ネットトラブルの防止**： SNS等による問題が生じないように、適切な指導と管理を徹底する必要があります。
- **意識の徹底**： アンケートでは「いじめなし」の結果が出ていますが、今後も「いじめは絶対に許されない」という意識を生徒に継続して浸透させてください。

(7) **地域連携（コミュニティ・スクール等）について**

- **地域協働の推進**： 地域の特色や人材を積極的に活用し、学校と地域が一体となって生徒を育てる取組をさらに推進してほしい。
- **義務教育学校への移行対応**： 次年度から五木村が義務教育学校への移行に伴い、施設面等での変化など予想されます。これまで以上に校種間および地域との緊密な連携をお願いします。
- **参画体制の強化**： 学校運営協議会等を通じ、地域住民が学校運営を支援・協力できる体制をさらに深めていくことを期待します。

5 総合評価

教育綱領「礼節」「勤労」「進取」のもと、人吉・球磨地域にある人吉高校の分校として、五木村や外部専門機関とも連携し、小規模校の特長を最大限に生かした魅力ある教育活動を展開し、心豊かで調和のとれた人材の育成を実践することができた。

本年度も重点目標として、「一人一人が輝く分校生」を教育スローガンに掲げ、「自己管理能力の育成」、「ICTを活用した教育活動の深化」、「進路指導の充実」「多様な生徒への対応」、「地域に根ざした特色ある取組」、「職員の多忙化解消」の推進を行ってきた。学校運営協議会の皆様からはこれまでの取組を評価するとともに、地域理解に努め、地域の行事への参加や地域の人材を活用した教育活動に加え、外部専門機関と連携した地域の特色を生かした取組等を通して、地域とともにある学校づくりを期待するお言葉をいただいた。

(1) **学校経営について**

- 全体的に高評価で、小規模校ながら、外部機関と連携することでの専門的知見を活かした教育活動や、地域との関わりをより深め、五木分校ならではの魅力ある教育活動を実践することができた。
- 様々な教育活動を通して、多くの人との交流や意見交換等の機会があることで、本校の課題である生徒のコミュニケーション能力を育成することにも繋がっている。

(2) **学力向上について**

- 基礎学力の定着を目指した学校設定科目「ステップアップ」では、生徒が達成感を感じることができ学習意欲の向上に繋げることができた。
- 丁寧な個別指導や、一人一人の課題や学習状況を生徒と教員が共有することで、学習意欲の向上が見られた。
- 家庭学習に対する課題の提示があった。

(3) **キャリア教育について**

- 総合的な探究の時間では従来の活動に加え、県内の分校との交流や東京大学先端科学技術研究センターの専門的知見を活かした地域理解の活動などを充実させることができた。さらに、学校行事や人吉球磨地区での成果発表、KSH学びの祭典での活動紹介など、生徒が様々な場面で日頃の活動を発表することで、探究活動への意欲を高め、自信をつけることができた。
- 生徒の進路希望を達成するため、インターンシップや外部機関と連携した指導体制を構築し、3年生においては全員進路決定することができた。

(4) **生徒指導について**

- 日常の学校生活での気づきを職員で共有し、声掛け指導をするとともに、毎月の全校集会で学校全体として指導することで規範意識の喚起と改善が図られた。様々な活動において、生徒一人一人に役割があり、責任を持ってやり遂げる姿が多く見られた。家庭との連絡を密にして保護者と連携を深めた。

(5) 人権教育の推進について

- ・日頃から、必要に応じて生徒情報の共有や課題を検討する時間を設定するとともに、スクールカウンセラーによる職員研修を実施し、全職員で生徒理解を深め、個に応じた対応を迅速に行うことができた。
- ・普段の授業や行事での協働活動を通して、自分と他者の命や存在を大切にし、思いやりのある発言や態度について考え、生徒自身が自分たちの行動を振り返る機会を設定することで、人権意識の涵養に繋げることができた。

(6) いじめの防止等について

- ・いじめの報告に関しては年間0件を達成することができたが、アンケートから生徒のいじめに対する意識にまだ不足している部分が見られた。今後は、定期的に「いじめはどんな理由があっても絶対に許されない」ということを徹底して指導する必要性を感じている。

(7) 地域連携（コミュニティースクールなど）について

- ・地域の方々に御協力いただき、地域理解を深め、地域や小人数である特長を生かした教育活動を実践できた。さらに、地域の祭りに一団体として参加することで、地域の方々との交流を深めたり学校の活動をメディアで発信したりするなど、学校の魅力向上に努めることができた。今後も地域や保護者と連携しつつ、外部専門機関の知見も生かしながら、教育活動のより一層の充実を目指したい。

6 次年度への課題・改善方策

【課題1】

学習習慣と生活習慣の確立を目指した自己管理能力のさらなる育成

【改善方法】

定期的な面談や家庭との連携を図ることで健全な生活リズムを整える。また、教科による適切な課題設定など無理のない範囲で学習に向かう姿勢を養う。

【課題2】

生徒自身の対人関係スキルの向上

【改善方法】

月に一度の集会などを利用してSST（ソーシャルスキルトレーニング）を実施し、良好な人間関係の構築のために必要なスキルを身に付ける。また、自己理解や自己開示を促す機会を設け、他者を理解する心、思いやりの心、協調性を育む。

【課題3】

さらなる地域連携

【改善方法】

五木村の方々から分校を理解してもらうために、より地域に根差した活動や義務教育学校との連携、交流を増やすことで独創的で魅力ある学校を目指す。